

シンポジウム案内

OECD 国際共同プログラム後援・生物多様性条約 COP10 記念シンポジウム —農林水産業に寄与する生態系サービスの持続的利用に果たす森林の生物多様性の役割—

2010年10月に、愛知県名古屋市において生物多様性条約第10回締約国会議(CBD/COP10)が開催されます。農林水産業の持続性に生物多様性が重要な役割を果たしていることは、社会的に広く認められているところです。その一方、生物多様性の活用とモニタリングや評価について適切な方法が無いために、生物多様性を活用するための国家および国際政策の立案と実施には多大な困難があります。その理由の一つに生物多様性に関する研究集会が、生態学や社会学など特定の専門分野の研究情報の共有のみを目的としてきたことがあげられます。

そこで森林総合研究所は早稲田大学環境総合研究センターと共同で、世界各地の生態学、社会学、経済学などの分野における生物多様性研究の専門家の出席により、1) 森林の生物多様性を基礎とする生態系の環境サービスが農林水産業に与える影響、2) 生物多様性の減少に繋がる生態、社会および経済的要因、3) 生物多様性条約ポスト2010年目標に貢献するための研究者の役割について示すことを目的に、本シンポジウムを企画しました。

日時 2010年4月26日(月)~28日(水)

場所:早稲田大学小野記念講堂 <http://www.waseda.jp/cac/gallery.html>

主催：独立行政法人 森林総合研究所、早稲田大学環境総合研究センター

協力機関：生物多様性条約事務局、カナダ森林局、東北大学生態適応 GCOE、
名古屋市立大学、国立環境研究所、フィンランド森林研究所、CIFOR

後援：OECD、林野庁

協賛：ゴルファーの緑化促進協力会

講演予定者:

Tim Christophersen(生物多様性条約事務局)

Ian Thompson(カナダ森林局)

John Parrotta (アメリカ農業局)

Jari Parviainen(フィンランド森林研究所)

Robert Nasi (国際林業研究センター)

Nancy Schellhorn(オーストラリア連邦科学産業研究機構)

Eckehard Brockerhoff (ニュージーランド森林研究所)

Jason Tylianakis (ニュージーランド・カンタベリー大学)

Pushpam Kumar (イギリス・リバプール大学)

中静透(東北大学生態適応 GCOE)

松田裕之(横浜国立大学)

香坂玲(名古屋市立大学・COP10 支援委員会アドバイザー)

五箇公一(国立環境研)

岡部貴美子(森林総研)

*シンポジウムの言語は英語です。同時通訳があります。

<参加申し込みについて>

参加費は無料です。参加される方は、氏名・所属・連絡先住所・連絡先 email・参加日（限られた期間のみの参加の方）を森林総合研究所 CDB/COP10 シンポジウム担当（CBD_COP10@ffpri.affrc.go.jp）まで事前にお知らせください。出席予定者が定員（約 206 名）を超え次第、締め切りとさせていただきます。

本シンポジウムでは関連するテーマでのポスター発表者を募集しています。希望される方は 2010 年 1 月 30 日までに、「題名」「発表者（共著者含む）」「要旨（250 語程度）」をシンポジウム実行委員会（CBD_COP10@ffpri.affrc.go.jp）にお送りください。採用されたポスター発表者（代表者）には、2 月 15 日までにメールで詳細をお知らせいたします。

プログラム

第1日目：4月26日（月）

9:00 受付開始

9:30~

開会挨拶:鈴木和夫（森林総合研究所理事長）

OECD 国際支援プログラムの役割：ゲリー・フィット（OECD 科学助言委員会代表）

趣旨説明：岡部貴美子（シンポジウム議長）

10:00~

基調講演 1)中静透（東北大学）：森林の生物多様性により提供される生態系サービス

11:00~13:00 ポスターセッション

13:00~14:30 セッション1 生態系サービスからみた森林の生物多様性の価値

2)イアン・トンプソン（カナダ森林局）：生物多様性と森林生態系の復元力および気候変動との関係

3)ジェイソン・ティリアナキス（カンタベリー大学）：農作物生産性の確保—在来生物多様性が送粉と害虫制御を担う—

4)プシュパム・クーマー（リバプール大学）：生態系サービスと生物多様性の管理の価値と生態系サービスへの支払い

15:00~16:30 セッション2 森林がもたらす生態系サービスのゆくえ

5)岡部貴美子（森林総研）：農食料生産における生態系サービス提供生物群の保全

6)ナンシー・シェルホーン（オーストラリアの連邦科学産業研究機構）：害虫制御サービスの把握—森林と農生態系間の在来天敵の移動

7)向井宏（京都大学）：森林の生態系サービスがもたらす沿岸域の多様性及び生産

16:30~17:00 総合討論

第2日目：4月27日（火）

9:00 受付開始

9:45~10:00

開会の辞: イアン・トンプソン（シンポジウム議長）

10:00~

8)招待講演 松田裕之(横浜国立大学):持続的資源利用のための食料と文化の多様性の重要性

11:00~13:00 ポスターセッション

13:00~14:30 セッション3 森林生態系サービスを維持・利用するための戦略

9)五箇公一(国立環境研):侵入生物の在来生態系及び生態系サービスへの脅威を低減する

10)ジョン・パロット(アメリカ農商務省):劣化した熱帯林景観における生物多様性と森林生態系の修復

11)エッケハルト・ブロヒャロフ(ニュージーランド森林研究所):植栽林と生物多様性の保全

15:00~16:00 セッション4 生態学からみた持続可能な森林経営

12)ロベール・ナシ(国際森林研究センター):熱帯林と持続性

13)ヤリ・パービアイネン(フィンランド森林研究所):社会のニーズの変化と持続可能な森林管理と生物多様性—ヨーロッパの一例

16:00~17:00 総合討論

第3日目:4月28日(水)

9:00 受付開始

9:30~10:45 セッション5 国家的、国際的な戦略

14)香坂玲(名古屋市大):科学者とNGOはどのように生物多様性条約ポスト2010年目標に貢献できるのか:社会的関心喚起への挑戦

15)ヨハネス・ストール(生物多様性条約事務局):国際的な森林の生物多様性に関する目標と科学的なモニタリング

環境省及び林野庁からのコメント

11:00~11:35 まとめ

11:35~ 閉会挨拶:大河内勇(森林総研理事)

*本プログラムは変更になる場合があります。随時、HPでご確認ください。

『講演者紹介』

4) プシュパム・クーマー (Pushpam Kumar):リバプール大学

プシュパム・クーマー博士は過去2年間、リバプール大学(現在)、ケンブリッジ大学・経済成長研究所、デリ大学で研究及び教育を行っている。研究に取り組んでいる分野は生態系サ

ービスと環境劣化の評価と算定、生態系管理のための政策及び対策、貧困と生態系の関連性などである。彼の研究は生態系と開発に対する政策に明確に焦点が絞られている。クーマー博士はミレニアムアセスメントのワーキンググループにおける主著者の一人であり、2007年にノーベル平和賞を受賞した第4次 IPCC の主著者でもあった。現在、博士はヨーロッパ環境エージェンシー（EEA）の生態系サービス算定の専門家会合のメンバーである。また研究手動チームの一員として、EC, UNEP, DEFRA, ドイツ BMU による TEEB の科学コーディネーターである。またイギリスの国内生態系評価専門家会合のメンバーとして、ESEE のボードメンバーに選出された。*Ecological Economics*, *Global Environmental Politics* や *Ecological Economy* のエディターでもあり、数々の論文を国際的に評価の高い雑誌に発表している。

最近の業績（一部）

著書

・ Pushpam Kumar (with Kanchan Chopra and Preeti Kapuria) (2009) *Biodiversity, Land-Use Change and Human Well Being: A Case Study of Sundarbans*. Oxford University Press.

著書（編者）

・ Pushpam Kumar (with Mike Wood). ed(s) (2009) *Valuation of Regulating Services of Ecosystems: Methodology and Applications (Forthcoming)*. Routledge, London

・ Pushpam Kumar and Roldan Muradian. ed(s) (2008) *Payment for Ecosystem Services and Valuation. Ecological Sustainability and Human Well Being* Oxford University Press ,

・ Pushpam Kumar (with K Chopra, R Leemans and H Simons). ed(s) (2005) *Ecosystem and Human Well Being: Response Policies*. Island Press, Washington DC

論文

・ Pushpam Kumar (2009) *Assessment of Economic Drivers of Land Use Change in Urban Ecosystems of Delhi, India*. *AMBIO* vol 38 issue 1 pp 35-39

・ Pushpam Kumar (with Flavio Comim and Nicolas Sirven) (2009) *Poverty and Environment Links: An Illustration from Africa*. *Journal of International Development* vol 21(3)

・ Pushpam Kumar (with Rodney B W Smith) (2008) *Contracts in the Payments for Ecosystem*

Services: The Case of Bioprospecting. *Ecological Economy*, Vol4 No2 pp 3-26

- Pushpam Kumar (with Uwe A. Schneider) (2008) Greenhouse Gas Emission Mitigation through Agriculture. *CHOICES* published by the American Agricultural Economics Association vol 23 issue 1 pp 19-23
- Kumar, P and Kumar, M (2008) Valuation of ecosystems services: psycho-cultural perspective. *Ecological Economics*, 64 808-819.
- Kumar, P. (2008) Payment for ecosystem services: emerging lessons'. *Ecological Economy*, 4(1): 1-13
- Kumar, P with Pete Smith et al.. (2007) Policy and technical constraints to implementation of green house mitigation options in agriculture. *Agriculture, Ecosystems and Environment* vol 118
- Pushpam Kumar (along with Pete Smith et al) (2007) Greenhouse gas mitigation in agriculture. *Philosophical Transactions of the Royal Society, London*

5) 岡部貴美子 (Kimiko Okabe) : 森林総合研究所

現在(独)森林総合研究所において、生物多様性条約2010年目標達成評価、生物多様性予測モデルによるシナリオ分析、森林の微生物多様性などを含む生物多様性研究プロジェクトのプロジェクトリーダーである。千葉大学で農学・昆虫学で学位を取得し、きのこ栽培及び林業害虫防除や森林の生物多様性保全を担当してきた。ダニ学の専門家であり、現在は昆虫や菌類との相互関係に最も興味を持っている。また森林の生物多様性と生態系サービスの関係や、生態系サービスを最大化するための森林管理、生物多様性に対する林業の影響などについて研究を行っている。これまでに生物多様性条約の専門家会合や ITTO/IUCN のガイドライン修正に関する専門家会合に出席したほか、国内の森林の生物多様性保全に関する事業の評価委員を務めている。

主な業績

- Taki H, Inoue T, Tanaka H, Makihara H, Sueyoshi M, Isono M, Okabe K (2010) Responses of community structure, diversity, and abundance of understory plants and insect assemblages to thinning in plantations. *Forest Ecology and Management* 259: 607-613.
- Hasegawa M, Fukuyama K, Makino S, Okochi I, Tanaka H, Okabe K, Goto H, Mizoguchi T, Sakata T (2009) Collembolan community in broad-leaved forests and in conifer stands of *Cryptomeria japonica* in Central Japan.

- Pesq. agropec. bras., Brasília, v.44, n.8, p.881-890.
- Yamaura Y, Ikeno S, Sano M, Okabe K, Ozaki K (2009) Bird responses to broad-leaved forest patch area in a plantation landscape across seasons Reference. *Biological Conservation* 142:2155-2165.
- Taki H, Okabe K, Makino S, Yamaura Y (2009) Contribution of small insects to pollination of common buckwheat, a distylous crop. *Annals of Applied Biology*. 155: 121-129.
- Yamaura Y, Amano T, Koizumi T, Mitsuda Y, Taki H, Okabe K (2009) Does land-use change affect biodiversity dynamics at a macroecological scale? A case study of birds over the past 20 years in Japan. *Animal Conservation* 12:110-119.
- Okabe K, Makino S (2008) Parasitic mites as part-time bodyguards of a host wasp. *Proceedings of Royal Society B (Biological Science)* 275: 2293-2297.
- Okabe K, Goka, K (2008) Potential impacts on Japanese fauna of canestriniid mites (Acari: Astigmata) accidentally introduced with pet lucanid beetles from Southeast Asia. *Biodiversity and Conservation* 17:71-81.
- Makino S, Goto H, Hasegawa M, Okabe K, Tanaka H, Inoue T, Okochi I (2007) Degradation of longicorn beetle (Coleoptera, Cerambycidae, Disteniidae) fauna caused by conversion from broad-leaved to man-made conifer stands of *Cryptomeria japonica* (Taxodiaceae) in central Japan. *Ecological Research*. 22. 372-381.
- Makino S, Goto H, Inoue T, Sueyoshi M, Okabe K, Hasegawa M, Hamaguchi K, Tanaka H, Okochi I (2006) The Monitoring of Insects to Maintain Biodiversity in Ogawa Forest Reserve. *Environmental Monitoring and Assessment*. 120: 477-485.

10) ジョン・パロット (John Parrota) : アメリカ合衆国農務省

ジョン・パロット博士は現在アメリカ合衆国農務省森林局の国際的科学的事案に対する研究プログラムのリーダーである。博士は1987年にイェール大学から熱帯林の生態と林業研究において学位を授与され、熱帯林の生態学、管理、復元、造林などに関してエキスパートとして関与する中で、150を超える関連の著作を発表している。彼が特に関心を持っているのは、森林生態系の復元、気候変動に対する森林と住民の適応、森林に

関する伝統的な知識などである。2001年から2008年にかけてはCBDに対する合衆国代表団の森林の生物多様性の代表を務め、国際森林研究機関連合（IUFRO）では2001-2005年にかけてはDivision1（造林）のコーディネーターを、2005年から現在までは森林の伝統的知識に関するIUFRO作業部会のコーディネーターを務めている。またIUFROが総括する森林と気候変動への適応策に関するCPF国際専門家会合の主著協力者の一人でもある。最近では2010年IUFRO世界会議科学委員会の議長を務めている。

業績（一部）

Brockerhoff, E., Jactel, H., Parrotta, J.A., Quine, C. and Sayer, J (Eds.). 2009. *Biodiversity and Planted Forests - Oxymoron or Opportunity?* Topics in Biodiversity and Conservation vol. 9, Springer, Dordrecht, the Netherlands. 287 p.

Parrotta, J.A. Lim, H.F., Liu, J., Ramakrishnan, P.S. and Youn, Y.-C. (Eds.) 2009. Traditional Forest Knowledge and Sustainable Forest Management in Asia. *Forest Ecology and Management* 257(10): 1987-2078.

Parrotta, J.A. and Agnoletti, M. (Eds.) 2007. Traditional Knowledge, Cultural Heritage and Sustainable Forest Management. *Forest Ecology and Management* 249: 1-139.

Carnus, J-M, Parrotta, J., Brockerhoff, EG, Arbez, M, Jactel, H, Kremer, A., Lamb, D. O'Hara, K, and Walters, B. 2006. Planted forests and biodiversity. *Journal of Forestry* 104(2): 65-77.

Lamb, D., Erskine, P., and Parrotta, J.A. 2005. Restoration of degraded tropical forest landscapes *Science* 310(5754): 1628-1632.

Parrotta, J.A. 2001. *Healing Plants of Peninsular India*. CAB International, Wallingford, UK & NewYork. 917 p.

Parrotta, J.A and Knowles, O.H. 1999. Restoration of tropical moist forest on bauxite mined lands in the Brazilian Amazon. *Restoration Ecology* 7(2): 103-116.

Lamb, D., Parrotta, J.A., Keenan, R. and Tucker, N.I.J. 1997. Rejoining habitat remnants: restoration of degraded tropical landscapes. In: Laurence, W.F. & Bierregaard, R.O. Jr. (eds.) *Tropical Forest Remnants: Ecology, Management and Conservation of Fragmented Communities*. University of Chicago Press, Chicago, IL. pp. 366-385.

Parrotta, J.A., Turnbull, J. and Jones, N. 1997. Catalyzing native forest regeneration on degraded tropical lands. *Forest Ecology & Management* 99(1-2): 1-8.

Parrotta, J.A., Knowles, O.H., and Wunderle, J.M. 1997. Development of floristic diversity in 10-year-old restoration forests on a bauxite mined site in Amazonia. *Forest Ecology & Management* 99(1-2): 21-42.

Parrotta, J.A. 1993. Secondary forest regeneration on degraded tropical lands: the role of plantations as 'foster ecosystems'. pp. 63-73 in Lieth, H. and Lohmann, M. (eds.) *Restoration of Tropical Forest Ecosystems*. Kluwer Academic Publishers, Dordrecht, Netherlands. 269 p.

Parrotta, J.A. 1992. The role of plantation forests in rehabilitating degraded tropical ecosystems. *Agriculture, Ecosystems and Environment* 41(2): 115-133.

12)ロベール・ナシ (Robert Nasi) : 国際森林研究センター

1959年、フランス・ニース出身。森林エンジニアとしてフランス国家森林校を卒業後、パリ大学から生態学の学位を授与された。生態学を専門とし、1982年以来熱帯林の森林管理に関する研究を行っている。特にアフリカ、アジア、太平洋諸国を中心に滞在経験を持つ。現在はCIFORの「森林の環境サービスと持続的利用」プログラム長を勤める。

出版物等に関しては：

<http://www.ecologyandsociety.org/issues/view.php?sf=27>

13)ヤリ・パービアイネン(Jari Parviainen) : フィンランド (イェンスー) 森林研究所

ヤリ・パービアイネン博士は、現在、イェンスーにあるフィンランド森林研究所 (Metle) 東部ユニットの研究部長を務める。1980年にヘルシンキ大学において造林及び林業の博士号を取得した。森林管理、保護林と生物多様性、国内及び欧州の持続可能な森林管理の基準指標などに関する専門家である。

フィンランド森林認証委員会の議長及び2004年フィリピン、セブ、2006年フィンランド、ビアロウィーザ、2008年イェンスーで行われた持続可能な森林管理のための基準指標国際会議の専門家として、1990年ストラスブルク、1993年ヘルシンキ、2003年ウィーン、2007年ワルシャワにおいて開催された欧州の森林保全のための閣僚会合

におけるヨーロッパ科学助言委員会、1996-2004年のEC/COST Action E4（欧州保護林研究ネットワーク）及びE27（欧州森林保護地帯）、EU DG 環境生物多様性戦略及び2010年生物多様性行動計画のSEBI2010実施計画など多くの組織や会合における専門家委員及び議長を勤めている。また1996-1999年の3年間、ドイツ・ボンのフィンランド大使館において林業、環境、科学顧問を勤めた。林業や造林に関する学術誌やプロシーディングスへの投稿のほか本を執筆するなどこれまでに400以上の著作がある。

業績（一部）

Parviainen, J., Furu, P. & Kretsch, C. 2010. Tools for assessment of human health dimensions in forests. *Schweiz Z Forstwes* 161 (2010) 3: 000–000

Parviainen, J. 2009. The use and audiences of national forest sustainability reports. In: *Forest Criteria and Indicators - Analytical Framework and Report Workshop*, May 19-21, 2008, Joensuu, Finland. Conference Proceedings. USDA Forest Service General Technical Report WO-81. Technical Guide. August 2009. p. 25-36 + append. 161-178.

Parviainen, J. 2009. Nachhaltige Waldbewirtschaftung und steigende Ansprüche der Gesellschaft in Europa. In: Thees, O. & Lemm, R. (ed.). *Management zukunftsfähige Waldnutzung*. Eidgenössische Forschungsanstalt für Wald, Schnee, Birmensdorf. p. 649-674.

Parviainen, J., Bozzano, M., Estreguil, C., Koskela, J., Lier, M., Vogt, P. & Ostapowicz, K. 2007. Maintenance, conservation and appropriate enhancement of biological diversity in forest ecosystems. In: Köhl, M. & Rametsteiner, E. (eds.). *State of Europe's Forests 2007 - the MCPFE report on sustainable forest management in Europe*. Ministerial Conference on the Protection of Forests in Europe, Liaison Unit, Warsaw. p. 45-72.

Parviainen, J., Västilä, S. & Suominen, S. 2007. *State of Finland's Forests 2007*. Based on the Criteria and Indicators of Sustainable Forest Management. Publications of Ministry of Agriculture and Forestry 7/2007. 99 p.

Parviainen, J., Linser, S., Michalak, R., Piccini, C., Rautio, P., Larsson, T.-B., Higuero, I., Troeltzsch, K. & Lier, M. 2006. Area of forest ecosystems under sustainable management. (Indicators for monitoring sustainable forest management in the context of SEBI 2010, Expert group 6). 66 p.

Parviainen, J. 2006. Forest management and cultural heritage. In: *Forestry and*

Our Cultural Heritage. Prodeedings of the seminar 13-15 June, 2005, Sunne, Sweden. Ministerial Conference on the Protection of Forests in Europe. Liaison Unit. Warsaw. p. 67-75.

Parviainen, J. 2005. Virgin and natural forests in the temperate zone of Europe. In: Commarmot, B. (ed.). Natural forests in the temperate zone of Europe: biological, social and economic aspects. *Forest, Snow and Landscape Research* 79(1/2): 9-18.

15) ヨハネス・ストール (Johannes Stahl) : Secretariat, Convention on Biological Diversity

ヨハネス・ストール博士は生物多様性事務局の森林の生物多様性担当専門官である。博士は2002年から農林業における天然資源の管理と規制を専門としてきた。事務局に奉職する以前は、カリフォルニア大学バークレー校に天然資源の経済及び政治経済の分野のポストドクターとして在籍した。農学と社会人類学で学位を取得し、“Rent from the Land – A Political Ecology of Postsocialist Rural Transformation” (Anthem Press, 2010)という著作の出版のほか、国際的に著名な雑誌に学術論文を出版している。